

令和5年度「PTA だより」卒業式記念号

令和6年3月1日

祝 辞

PTA会長 下茂 広明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様が立派に成長され、今日この日を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

校長先生はじめ教職員の皆様、これまで生徒たちに対し温かくご指導いただきましたこと、保護者を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんは長い人生のうちの3年というごく一握りの期間の中で、様々な経験をしてきたかと思いますが、その大半はあの忌々しいコロナウイルスの猛威により、予想だにしない、また誰も経験をしたことのない世の中での3年間となってしまいました。その間の授業はもちろん、部活動や各種行事を制限され、本来高校生として華々しい活躍をし、希望の日々、そして何気ない日常を送るはずだったものが、誰にも何処にもぶつけることのできない感情だけが募る日々となり、苦しい思いや悔しい思いをしたのではないかと思うと、とても心が痛みました。

ただ、そんな前例のない手探りの状況の中で、新しい取り組みや創意工夫した活動を実践し、新たな前例を作り出したことは得難い経験として、皆さんの今後の人生に必ずプラスとなることでしょう。

慣れない日常を体感し、当たり前前の生活や当たり前前の出来事が、実は当たり前ではないということに気づき、当たり前前に流れる日々の生活に感謝すること、そんな思いを改めて感じた時期でもあったのではないのでしょうか。そのような経験をした皆さんは、新しいことにチャレンジした自信と当たり前前のことに感謝する心が備わり、大きく成長できたことと思います。

今日を最後にかけてえのない3年間を過ごしたこの一宮南高校から巣立ち、4月からはそれぞれ違う進路に向かいます。これまでの経験と、学んできたことを礎とし、新しい大海原へ帆をいっぱい張り、船出をしてください。マストに海鳥が翼を休めに來るような穏やかな日ばかりではなく、時には嵐に遭い、荒れた波間に翻弄されることもあるでしょう。押し流されず、迷うことなくしっかりと自分の舵を握って未来へ進んでください。

また、人に傷つけられ、悩むこともあるかと思いますが、その傷を癒してくれるのもやはり人です。人の優しさです。お互いを思いやり、助け合える素敵な友をぜひ作ってください。

卒業生の皆さんに心からの祝福を贈り、輝く光が未来を照らし続けることを願い、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

「人を得る」

校長 尾関 達哉

保護者の皆様、お子様が晴れの門出の日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、これまでの3年間、本校の教育活動にお力添えいただき、本当にありがとうございました。

43回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが入学した3年前の春は、新型コロナウイルス感染症により、日常生活にも様々な制限がありました。学校では、全員マスクを着用し、常に換気している状態で、冷暖房が十分に効かない中、授業が行われました。音楽では合唱やリコーダーの演奏はできず、家庭科では調理実習ができませんでした。学校祭や球技大会では三密を避けるため分散開催も行いました。部活動では、感染者が出るたび、濃厚接触者を確認し、活動を自粛したり、公式戦への参加を見合わせることもありました。社会全体が閉塞感に覆われている中、皆さんは、日々の学習、部活動、学校行事に向き合い、マスク越しで声を出すのもはばかりの中、その瞳には、コロナに負けない若いエネルギーが宿っていたように感じました。このつらい経験を決して忘れることなく、今後も感染防止のための新たな生活習慣を続けながら、ポストコロナの時代を力強く生き抜いてください。

卒業する皆さんに、私から「人を得る」という言葉を贈ります。宮城谷昌光さんの小説『諸葛亮』に、こんなシーンがあります。後に、劉備玄德の三顧の礼に応じて蜀の名軍師として三国時代を生き抜いた諸葛亮孔明は、若くして父を亡くし、叔父さんの下で中国の古典を学びながら農業に従事していました。彼を自分の手元に置き、その才能を肌で感じていた叔父さんは、彼が将来飛躍するために、学問を修めさせようとしていました。その時のやりとりです。

註1「亮よ。そなたはみなとともに、よく働いているときいた。が、やがてそなたは人を使わなければならなくなる」

叔父の声を聞いた諸葛亮は少しまなざしをさげた。多少、叔父のことばに抵抗があった。

「人を使うということは、牛馬のごとく使役するということではない。自分も人とともに働くことにかわりはない。ただし、それが高度になることだ。人を働きやすくさせ、公平感をおぼえさせること。といってもよい。そなたには、それができるだろう」

叔父にそういわれた諸葛亮は、まなざしをもどした。

「ところで、そなたは志学の歳を、とうに過ぎた。わたしのために、貴重な歳月を失った。そなたは教場へゆくがよい。師を得る者は王者となり、友を得る者は覇者となる、といわれている。学問は知識がすべてではない、と昔そなたに教えたな。教場で人を得るのだ」

卒業生の皆さん、私の贈りたい思いは伝わりましたか。皆さんが南高校へ入学したのは、志学の歳つまり15歳です。『論語』で言うところの志学の歳に本校に入学した皆さん、本校は皆さんにとってよき教場となったでしょうか。尊敬する師を得て十分に学ぶことはできたでしょうか。たとえ明日から離ればなれになったとしても、一生信頼し、支え合える友は得られたでしょうか。

私事ですが、高校時代にお世話になった先生やクラス或いは部活動で仲の良かった友人とは今でも関係が続いており、年賀状やSNSでつながっています。頻繁に顔を合わせることもなくとも、クラス会ではまるでタイムスリップしたかのように和やかに話ができます。もし、友人が困って連絡してくれば、自分にできることはすぐにでもしてあげたいし、お祝い事があれば喜んで駆けつけたい、そんな思いにさせてくれる人との出会いが「人を得る」ということではないでしょうか。将来皆さんが、この南高校で学んだこと、そして得られた師並びに友とともに働きやすく公平感のある世の中を築いてほしいと切に願います。そして、皆さんがこの世に生を

受けてから、かけがえのない存在としてここまで育ててこられた保護者の方々にも感謝の思いを忘れないようにしてください。

校歌にも歌われている校訓「創造と勤勉」の下、皆さんの過ごした3年間は後輩に伝統として引き継がれています。これまでも多くの先輩方が、本校を卒業し、実社会で活躍されています。43回生の皆さんも、顔を上げ、胸を張り本校卒業生として、新たな一步を踏み出してください。母校は、これからも皆さんの活躍を見守っています。今後の皆さんのご健勝を祈念して、私からはなむけの言葉とします。

註1 宮城谷昌光著『諸葛亮 上』日本経済新聞出版 2023年より引用

出 会 い を 大 切 に

学年主任・8組担任 堀 田 圭 悟

43回生の皆さんご卒業おめでとうございます。多くの皆さんが早く感じた3年間だったのではないのでしょうか。入学した日のことを思い出せますか。期待と不安の入学式だったことでしょうか。卒業した皆さんも、今まさに、新たな進路先への期待と不安が徐々にわいてきます。これから先も環境が変わったり、新しい経験をすることが何度もあるでしょう。その期待と不安の中に「人との出会い」があります。学校の先生は毎年新しい出会いがあります。新しい生徒、新しい先生。いくつになっても「人との出会い」はあります。みなさんの一宮南高校での仲間や先生方との出会いもとても貴重なものです。あなたと出会った一人は世界の人口を考えると80億分の1の確率で出会った一人です。だからこそ出会いを大切にしてほしいと思います。これから先も人と関わらずに生きていくことはできないはずです。この高校生活3年間で生涯の友と出会えた人もいるかもしれません。また、この先、自分の人生に大きな影響を与える出会いもあることでしょうか。新しい出会いが苦手な人もいるはずです。誰とでもすぐ仲良くなれる人を見ると羨ましく思うことでしょうか。私はどちらかというと新しい出会いは得意というか、楽しめます。初めて出会った人がどんな人か興味がありませんか。高校を卒業すると、他県の人や、他国の人、様々な出会いがあり、様々な人がいることに気付きます。地域が違うだけでも自分では思いもしないことが当たり前であったり非常に新鮮で驚きます。あらゆる人の思いや考えを知ると、自分の成長につながります。相手を知ろうとしても、ぐいぐいとあれこれ聞くのも不快な思いをさせることとなります。そこは、上手にゆっくりと相手を知ってください。自分のことをさらけ出すことも仲良くなる近道です。また、自分とは合わないなという人との出会いもあります。そんな人との付き合い方も学んでほしいと思います。

これからの多くの出会いを楽しみにして、自分から機会を増やし、さらに成長してください。また、これまでに出会った人とのつながりも大切にしてください。この先、起こる出来事で困ることもあるかもしれません。高校の友人のアドバイスや先生の一言などが役に立つ場面もあるはずです。多くの人と出会えた人はその引き出しが多くあるはずです。何年か後に成長した皆さんに会える日を楽しみにしています。ゆっくりでいいので、いろいろな人と出会い大きく成長してください。

はばたけ一宮南高校卒業生！

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

4 3 回生の学年団では希少種となってしまったオリジナルメンバーの一人として、無事卒業まで見届けることができました。

僕としても、教員生活で初めての担任ということで、手探りの毎日を過ごしていました。皆さんが入学時より心身ともに一回りも二回りも成長して卒業していくように、僕自身もまた、教員として大きく成長させてもらえた三年間だったと感じています。

ところで、皆さんは「青春」という言葉の語源をご存知でしょうか。中国の陰陽五行説(日本史選択者はやりましたね)の中にある、各季節と色を対応させた言葉が語源だそうです。厳冬が終わりを告げ、草木も青々と茂るなかで、いつか色とりどりの花を咲かそうと蕾が開花の準備をしている様子が目に浮かびます。

蕾は開花に向け、多くの栄養を必要とします。急いで開花してしまっただけでは、栄養不足で小さく弱々しい花しか咲かせられません。綺麗で大きな花を咲かせるためには、長い時と栄養、そしてタイミングを必要とします。

皆さんは、これからどのような花を咲かせたいですか？そのためにはどのような経験や知識を必要としますか？

大人になるにつれて考えなければならぬことが増えていきますが、そのような中でもひとつ、自分の蕾を大切に育て、いつか大きな花を咲かせてください。

「なぜ“勉強”するのかー」

2 組担任 山本 康介

皆さんは“勉強”が好きですか？少なくない人数が「嫌い」または「好きではない」と答えるのではないのでしょうか。もしかすると、“プロクルステスの寝台”的な学校のあり方がそうさせてしまったのかもしれませんが。勉強を“して”きたのか、それとも“させられて”きたのか。小学校、中学校、そして高校と 12 年間も学校で勉強し（させられ）続けてきた今、皆さんの中に残っているものとは何でしょうか。そもそも勉強する意味とは？学校で勉強を教える立場にある者としてそれを考えるとき、私はいつも次の言葉を思い出します。

“ Education is what remains after one has forgotten what one has learned in school. (教育とは、学校で学んだことをすべて忘れ去ってしまっただけで残っているものである。)”

ーアルベルト・アインシュタイン

高校を卒業すれば、時間の経過とともにそこで学んだことのほとんどを忘れ去ってしまうでしょう。「係り結びの法則」「加法定理」「過去完了進行形」「アルキメデスの原理」「ファンデルワールス力」「限界原形質分離」「禁中並公家諸法度」「カノッサの屈辱」……しかし、数年、数十年後、それでもなお皆さんの中に残っているものがあるとしたら、それこそが真の意味で学校で学んだこと、“勉強”だと言えるのかもしれませんが。

もう一つ、勉強する意味について述べた文章を紹介します。少し長いですが、読んでみてください。

「勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もあるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも化学でも、時間のゆるす限り勉強して置かなければならん。日常生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのは、カルチベートされるということなんだ。カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記している事でなくて、心を広く持つという事なんだ。つまり、愛するという事を知る事だ。学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようとあせってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ！」

一太宰治(『正義と微笑』)

“**学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し**”という言葉もあります。知識を蓄えることだけが勉強ではない。様々なことを学び、そして自ら考える。自ら考えるために、様々なことを学ぶ。そのような姿勢こそが、勉強を“**させられる**”から“**する**”に変えてくれるのだと信じています。皆さんの心の奥底に“**一握の砂金**”が積もり残っていることを冀っています。

皆さんのかけがえのない人生の一年間に携わることができたことをありがたく、そして誇りに思います。卒業おめでとう。

「ご卒業おめでとうございます」

3組担任 森川 智朗

文Ⅱ・理系の皆さんには、授業、平日の英語補習、文Ⅰの皆さんには夏期英文法早朝特別講座・通年の南山大学英語対策で大変お世話になりました。

残念ながら人生は諦めと選択の連続です。サッカー選手になりたい、お金持ちになりたい、色々な「こうありたい、こうしたい」を諦め、その後どの道に進むのかを選びながら、年齢を重ねていきます。卒業生の皆さんが諦めと消極的な選択の少ない、幸せな人生を歩んでいけることを心から祈っています。

最後に、人生の大きな岐路となる、皆さんの大切な1年間に関わらせていただき、ありがとうございました。

新たな舞台へ

4組担任 片桐恵理子

この1年、本当にお疲れさまでした。おそらく3年に上がってからの1年間は、皆さん方にとって、これまでとは比較にならないほど厳しい時間だったのではないのでしょうか。思いを遂げた人、志望に届かなかった人、結果待ちの人、さらに挑戦を続ける人、状況は様々でしょうが、新しいステージに進むという点では、みんな共通していると思います。

最近、とある新聞の「私の受験時代」というシリーズをずっと追っています。登場してくる人の共通点は、み

んな浪人経験があるということ（中には6浪、9浪などという人もいました）。そして例外なく、この経験がその後の人生に大いに役立っていると言っているということ。この点に関しては、挑戦の結果、不本意な進学先（もちろんそれは本人にとっては、ということですが）を余儀なくされた人においても、同様の思いでした。

皆さん方が過ごした、この1年の艱難辛苦の日々は、決意と失望と戸惑いが交差する、息詰まるような心中の攻防の時間だったと思います。それは恐らくこれまでの人生で初めての、険難な峰への登攀とっていいような、困難な状況の連続だったことでしょう。でもこの試練の日々は、後になればなるほどかけがえのない財産として、皆さん方の今後の人生の武器になると確信しています。それは、時とともにますます強固の度合いを強め、皆さん方を勇気づけてくれるはずです。「私の受験時代」に登場するすべての人が、塗炭の苦しみを味わったこの経験が、自分のその後の人生の大いなる武器になったと一様に言っているように。その、つらく苦しい日々を乗り越えたという、経験という武器を引っさげて、新たな舞台に立つ皆さん方に、心からのエールを送ります。

卒業、本当におめでとう。皆さん方のこれからの人生に幸多からんことを、遠くより祈っています。どうかお元気で。またどこかで会いましょう。

何事にも前向きに

5組担任 犬飼翔太

43 回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。私が教員になってから、みなさんは2回目の卒業生ですが、担任として、1つの学年を入学から卒業まで持ちあがりで担当したのは、今回が初めてです。高校卒業という、みなさんの人生の重要な節目に関わることができ、非常に嬉しく思います。

さて、4月からは新しい生活が始まります。就職、進学、これからはそれぞれの道を歩んでゆくことになりま。様々な経験をして、夢中になれること、一生を掛けて取り組んでいきたいと思うことに出会えると良いですね。一方で、やりたいとは到底思えないようなこと、なぜ取り組まないといけないのか理由さえも理解できないことにも会うかもしれません。一見すると役に立ちそうもない、時間の無駄だと思えるようなものごともあるかもしれません。

後から振り返ってみると、それらがすべて無駄になるかと言われれば、そうでもありません。役に立たないと思っていたことが、思いがけない場面で役立つということは意外とあるものです。

Apple の創業者 Steve Jobs の有名なスピーチの一節に、次のような文言があります。

You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future.

先を見越して点と点を繋げることはできない。後から振り返って繋ぐことしかできない。だから、将来その点どうしが何かしらの方法で繋がると信じる必要がある。

一見に無意味に思えることでも、その経験どうしが後になって繋がり、大きな意味を持つ、と Steve Jobs は自身の経験をもとにして語っています。これからみなさんが迎える「出会い」には必ず意味があると、私は思います。だからこそ、最初から無駄だと決めつけず、様々なことに興味を持ち、どんなことにも前向きに取り組んでほしいと思います。

人は、出会った人たちと経験した出来事によってつくられます。これからみなさんは、どんな人たちと出会い、どんな経験をし、どんな大人になるのでしょうか。数年後、またどこかでみなさんに会えるのを楽しみにしています。3年間ありがとうございました。さようなら。

「思い出」

6組担任 稲垣 卓

思い出とは、未来という目的地へ旅するための手荷物である。
この手荷物は、重すぎてもいけないし、軽すぎてもいけない。
重すぎれば、目的地へ向かって動くのが辛く感じてしまう。
軽すぎれば、中身のない旅で終わってしまう。

自分が持てるだけの思い出を持って、次の旅へ向かってください。
行き先は違うけれども、目指す場所はきっと光あふれています。卒業おめでとう。

出会い

7組担任 川合久美子

卒業おめでとう。この3年間で得た友人は、皆の大切な存在となっていることでしょう。友人から自分自身を知ることができ、友人の経験が自分の経験となり、友人との出会いが自分を幅広い大きな人間に成長させてくれます。この出会いを大切に、新しい場所で、これからも多くの出会いを作ってください。皆の幸福な未来を心から願っています。

後輩へ贈る言葉

「友達の大切さ」

3年4組 後藤綾音

在校生の皆さん、今までありがとうございました。

本日、私たち43回生は卒業します。

私の高校3年間は、あっという間に過ぎていきました。3年という月日の中には、忘れられない思い出がたくさんあります。南高祭、球技大会、遠足、クラス替え、部活…。そしてその中の私は、いつも友達と一緒にでした。

友達という時、自然と笑顔になることができ、本当に楽しかったです。友達の存在は、私にとってとても大きなもので、特に受験生になってからは、そのことを改めて実感しました。同じ立場にいるからこそ、お互いの気持ち分かり、不安な気持ちを言い合って励まし合うことができました。私一人では、受験という大きな壁を乗り越えられなかったと思います。

そのような私の経験からいっても、在校生の皆さんには、友達を大切にしてほしいです。生活を共に過ごし、笑い合った友達の存在は、困難な状況に直面した時に大きな支えとなります。これから何があっても、友達と一緒にならきっと大丈夫です。助け合いながら進んでいってください。

先輩へ贈る言葉

お世話になった先輩方へ

2年2組 鶴見礼生

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。長いようであつという間の3年間、先輩方にとってどんな日々だったのでしょうか。

普段から笑顔で楽しそうな先輩方、特に南高祭の時はどの学年よりも全力で楽しんでいる姿が印象的でした。昨年のパフォーマンスの練習では緊張していた私たちを明るい雰囲気を受け入れてくださり、楽しく練習することができました。そのおかげで本番も精一杯踊りきることができ、最高の思い出となりました。今年はダンスやバンドなどの魅力的な有志発表に加え、みんなが楽しみに思うようなクオリティの高いクラス企画、どれも目を奪われました。

ですが、勉強の時はがらりと変わって真剣に取り組んでいた姿も印象的です。朝早く来たときも部活が終わって帰るときも、たくさんある自転車。いろんな教材を手に机に向かっていく姿。勉強にずっとずっと打ち込み続けていた姿が本当にかっこよくて、きっと想像できないくらいの努力を重ねていたのだろうと思います。

楽しむところは楽しみ、しっかりやるべきところはやる。先輩方が示してくださった姿、次は私たちが示していきます。

広報活動に携わって

広報委員長 黒太 茂

2020年度に2度も発出された緊急事態宣言。2021年4月は解除された期間であったため、保護者も参加できる入学式が無事に執り行われました。これから始まる3年間が生徒たちにとって普通に仲間と過ごせる学校生活になるのだろうか、学校行事はできるのだろうか、不安に思えるスタートであったのを覚えています。一宮南高校は、生徒が生き生きと活躍できる様々な行事があります。中でも保護者が生徒と一緒に楽しめる行事は、何と言っても「南高祭」です。2021年の南高祭は緊急事態宣言中のため文化祭、体育祭ともに保護者の観覧ができませんでした。体育祭は学年ごとに行われる形式になりましたが、中止にすることなく開催できました。広報委員の活動として、文化祭・体育祭の写真撮影をする中で、カメラのファインダー越しに見えた景色は、生徒達の絆が深まる場面ばかりでした。リレーのスタート位置に立つ生徒が不安そうにしていると応援席から仲間の思わぬ声援が届いて驚き、奮起する光景を目の当たりにしました。感染拡大を防止しながら送る学校生活が、行事を開くことにより生徒同士の絆をさらに深めることに繋がったと感じました。さらに、知恵を絞って工夫することで行事をこなしていくスキルも身についたのではないかと思います。コロナ禍であっても容易に中止にすることはせず、しっかり行事をこなすことができたのは、ひとえに先生方、行事を運営する生徒達、PTA役員・理事の方々のご協力のおかげであると感じております。生徒達の思い出がたくさん作れて良かったと安堵しました。3年間ありがとうございました。





